

# 膠原病・リウマチ性疾患と妊娠

全身性エリテマトーデスや関節リウマチをはじめとした膠原病・リウマチ性疾患は、妊娠可能な若年女性に発症することも多いです。膠原病に罹患していると妊娠や出産は難しいと考えられていた時代もありましたが、医学の進歩に伴い膠原病・リウマチ性疾患があっても妊娠・出産が可能な時代となってきています。しかし、いつでも誰でも可能なわけではなく、しっかりとした準備が必要になります。

膠原病・リウマチ性疾患の患者さんが妊娠を考えるまでの流れ

## ① 妊娠を避けないといけない症状がないか

肺高血圧症、間質性肺炎、慢性腎臓病、心不全などで臓器の機能が落ちている場合は、より慎重な対応が必要です。

## ② 病状が落ち着いているか

大量ではないステロイド(目安はプレドニン 15 mg/日以下)で、活動性がない状態(寛解)が、一般的には6か月ほど続いている必要があります。

## ③ 使ってはいけないお薬は飲んでいないか

妊娠中も使用できるお薬は増えてきましたが、使用できないお薬も少なくないため、妊娠を考えた際には別のお薬に変更する必要があります。特に病気を抑えるために必要なお薬の場合、変更後にも病気が落ち着いていることを確認するためにしばらく様子を見る必要があります。

重要なことは、妊娠を考えた時には早めに主治医の先生と相談することです。妊娠が許可できるのには時間がかかるかもしれません。適切でないタイミングでの妊娠は、赤ちゃんだけでなく母体も危険にさらされる可能性があるため避けなければいけません。

また、病気がなく薬も内服していない女性でも、流産は10～15%、先天異常は3%程度の自然発生率であることは理解しておくほうがよいでしょう。

当科では、安全な妊娠・出産が迎えられるように情報提供を行い、産婦人科など様々な医療スタッフと協力して診療を行っています。